

精神疾患の病態解明と 診断・治療法開発に関する研究

学術部門



新潟大教授

染矢 俊幸氏(57) 新潟市西区

治療の標準化に尽力

精神科医として歩んできた30年余りは、診断や治療の導入に関わり、薬の効果技術が大きく進歩した日本・副作用や病態解明に関する精神医療の変革期に重なる臨床研究も進め、精神医学の発展に貢献した。

東京大医学部を卒業し、伝子に関連しているのかを付属病院勤務を経て1986年に滋賀医科大へ。DSM第3版の翻訳を担った高橋三郎教授の下で、それ以降の版の翻訳やDSMの有用性の研究に携わった。

かつて精神医療の現場では個々の医師の経験に頼る診断が多かったという。客観的で信頼性の高い診断システムとしてDSMが普及し、「情報の共有や蓄積が果たした。飛躍的に進んだ。98年に新潟大教授に就任。発達障害の研究にも取り組みほか、中越地震や東日本大震災などでは医療チームによる心のケア活動で中心的な役割を果たした。

「ここまで来られたのは地道な臨床研究と一緒にやってくれた医局員のおかげ」と感謝する。「病態解明とともに、臨床医として新しい診断や治療法の発見を目指したい」と話した。